

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)
在外研究
2011年度研究成果報告書

研究代表者	所属・職名		氏名	
	経済学部・准教授		小澤 康裕 印	
研究課題	財務諸表監査および保証業務における監査人の判断に関する実証的研究			
研修期間	2011年 4月 1日 ~ 2011年 8月 31日 (153日間)			
経費	年度経費	SFR助成額	所属学部からの補助額	合計
	2010年度	0円	円	円
	2011年度	1,847,500円	0円	1,847,500円
主な滞在国及び研究機関名	国名	研究機関名		
	オーストラリア	University of New South Wales		

研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)

本研究は2つのプロジェクトから構成されている。第一のプロジェクトは、Noel Harding 准教授との共同研究として、監査人の発話プロトコルデータを用いて、監査判断にみられる懐疑心について検討することであった。まず、シドニー在住の第三者(日本人)の協力を得て、発話プロトコルデータの Kategorization について、その合理性を検証した。その結果、Kategorization については 65 パーセント程度の一致率であった。その後、当該第三者との協議を経て、発話プロトコルデータの Kategorization を確定した。この Kategorization されたプロトコルデータを用いて、プロトコル分析を行っている。予定よりもプロジェクトは遅延しているが、2012年度中には、ディスカッション・ペーパーを作成し、これに基づき、学会報告を行う予定である。なお、その過程で、発話プロトコルを用いた判断研究について、監査人と同様に、証券アナリストの判断についても十分な先行研究の蓄積があることがわかった。そこで、まずはこれに関して、後掲した論稿にまとめた。

第二のプロジェクトは、Wendy Green 准教授と CSR 報告書 (Sustainability Report、カーボンエミッション報告書を含む) に対する保証業務に関する共同研究を行うことであった。このプロジェクトについては、主にデータベースの作成に取り組んだ。このデータベースは東京証券取引所第1部の企業をほぼ網羅している。また、CSR 報告書の「第三者意見 (第三者コメント)」という日本固有の保証実務に関して、当該意見 (コメント) の経験豊富な大学教員に対してインタビューを実施した。その結果、諸外国にはみられない第三者意見 (第三者コメント) がわが国で提供されるようになった経緯、その一般的な報酬や手続等について証言を得ることができた。

また、本研究については、Wendy Green 准教授との議論によって、当面の仮説及び regression model を設定している。具体的には、被説明変数として、保証の種類及び保証提供者を想定し、説明変数として、総資産額、総資産の自然対数、総資産利益率、固定負債比率、コーポレート・ガバナンスの強さを挙げている。

研究成果の概要 (つづき)

キーワード (研究内容を適確に表しているものを 5 項目で記入)

[監査判断] [CSR] [プロトコル法] [保証業務] [懐疑心]

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文タイトル、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

①□小澤康裕、プロトコル法を用いた証券アナリストの判断研究、立教経済学研究、第 65 巻、第 1 号、2011 年、115-121 ページ